

## 令和6年度学校評価 松本筑摩高等学校 通信制

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練習を目的とする。		「心あたたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。	3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力の定着・伸長を図る。		
		2 社会人基礎力（特に挨拶ができる力）を育てる。	4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。		
学年	重点項目	評価の観点	成果と課題	改善策	
全般	キャリア教育の推進	1	自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導・「総合的な探究の時間」・行事等の学校活動の中で、キャリア教育的観点に立った体験活動を体験させることができたか。	【成果】 レポート指導やスクーリングを通じ、社会生活に必要な基礎学力や対人マナーを育成することができた。職業適性検査では、ハローワーク職員による検査結果の解説を行い進路相談の機会にもなった。県教育委員会主催「キャリア・チャレンジ・パスポート」に参加し職業観を広げた。各種進路行事や学校設定科目「就職チャート」を実施し、生徒の進路実現につなげた。Googleクラスルームやさまざまなネットを活用し進路情報を発信した。 【課題】 生徒集団に向けての指導を日常的に行えない中で、キャリアデザインへの意識づけが課題である。行事内容を生徒の実状に合わせて検討するとともに、情報発信や参加生徒を増やす方法の模索が必要と思われる。コミュニケーション力や表現力が十分でない生徒への効果的な支援の仕方も引き続き検討していく。	・生徒のキャリア形成や意識づけは通信制のあらゆる活動の中で培われることを、職員の間で共通認識とする。 ・教科指導やホームルームでの生徒との関わりを軸に、学校生活全般での社会人基礎力（挨拶を含むマナー、タスク管理など）の育成。 ・ホームルーム担任による生徒理解と、生徒に応じて早い時期から卒業後の進路に意識を向ける指導、適切な情報提供、引き継ぎ。 ・体験活動の充実（午前部・午後部との連携、県やハローワークによる職場見学への参加を継続）、情報提供。 ・面接・履歴書講座の充実。 ・「就職チャート」の主旨理解徹底と指導強化。 ・マイポートフォリオの主旨理解と積極的な活用。
		2	学期末、年度末の事後評価に終了するのではなく、教員の指導改善、生徒の学習改善につながる観点別学習状況の評価を意識したレポート添削や教科指導を行うことができたか。	【成果】 昨年度と同様に、レポートや学習のしおりに「観点別学習状況の評価について」を記載し生徒に周知を図った。 中途退学放逐教育研究発表で観点別学習状況の評価を付記した複数レポート課題を作成したこともあり、観点別評価と関連させた教科指導を心掛けることができた。 【課題】 レポートや面接における学びがその場限りという姿勢の生徒が多く、次の学習に評価を生かすまでには至らなかった。	・レポートの設問に評価の観点を付記する、面接時に観点を明示する、学習の振り返りを行う機会を設定するなど、改善していきたい。 ・通信制の学習システムでは「思考・判断・表現」を評価するための活動は難しい場面もあるが、レポートや面接に多様な活動やポートフォリオを取り入れるなど、工夫する。
学習指導	添削指導及び授業の工夫・改善	3	添削指導や授業において、個々の生徒の単位修得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	【成果】 添削指導では、分かりやすく丁寧なアドバイスに努め、多くの生徒の単位修得に結びつけることができた。今年度前期は、81.6%というこの数年では一番高い修得率となった。スクーリング（面接授業）では、ICT機器の活用や補助プリントの配布等、分かりやすい面接を工夫した。期末テスト前には「学習相談期間」を設定し、より丁寧なレポート指導を行った。 【課題】 生徒の一部は、レポート提出やスクーリング出席が満たせず、単位修得に結びつかなかった。	・引き続き、個々の生徒の詳細な情報共有に努め、より多くの生徒の単位修得につながるような面接指導・レポート添削に努める。 ・「学習相談期間」だけに限らず、年間を通して個別指導を懇切丁寧に行う。
		4	計画的に学習を進められるよう、学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	【成果】 「きずなネット（メール配信）」は毎回のスクーリング後には必ず行い、タイムリーな情報発信に努めた。また、レポートの締切日等の重要期前には、再三再四情報を発信した。情報誌「筑摩」を年6回発行し、学校、生徒、保護者等と情報を共有することができた。各HR担任においても、Google Classroom によって随時連絡をとるよう努めた。 【課題】 「電話」を始めとする情報通信システムでは連絡がつかなくなってしまう生徒もいる。	・「きずなネット」や情報誌「筑摩」はさらに充実したものとなるよう、内容の精選を行う。導入して5年目となるGoogle Class Roomも、HRだけではなく教科・科目も積極的に活用し、随時適切な情報発信に努める。 ・登校が少なかったり、連絡が取りにくかったりする生徒に対しては、保護者等にも電話連絡を行い、重要情報は確実に伝えるよう配慮する。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	5	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身につけさせることができたか。（面接授業、行事、学習室の利用方法、バイク・自動車通学など）	【成果】 新たに、第一職員室近くに学習室が設けられ、多くの生徒が利用した。職員も生徒との面談や面接練習等活用しやすかった。 【課題】 学習室を談話室のように利用する生徒が見受けられた。巡回時に、しっかりと声かけをするなど適切な利用を図りたい。	・新年度の最初のロングホームルーム時に担任から、学習のしおりに「学校生活における諸注意」について確認してもらうよう呼びかける。 ・巡回時に、生徒の様子をよく見て、正しいマナーについて指導していく。
		6	互いの人格が尊重された安全で安心な環境づくりが具体的にできたか。（IDカード、立ち番、校内視察、SOSの出し方教育など）	【成果】 朝の立ち番では、登校生徒に挨拶をし様子を伺うことが出来た。また、自動車やバイクでの通学及び保護者送迎車が駐車場トラブルのないように安全な誘導ができた。 【課題】 本校生徒が外部者を連れて校内に入ってきた事例があった。職員間で迅速な情報共有が必要である。	・巡回時には、必ず生徒指導用アルバムを携帯し不審に思った生徒にはクラスと名前を確認（IDカードの提示）を行うようにする。 ・登下校に自転車を使用している生徒に、ヘルメットの着用を呼びかける。
生徒指導	相談支援	7	命の大切さへの理解を深めさせると同時に、個々の生徒が抱えている課題を共有し、学習活動につなげる支援ができたか。	【成果】 昨年度にも増してSCによるカウンセリング希望者は増えている。SCからの医療につながる生徒もいた。1年を通して継続してカウンセリングを受ける生徒は増加し、SCとのカウンセリング後のシェアの時間を取ることで、一人一人の生徒に対して、それぞれの立場から見守ることができた。 【課題】 カウンセリング希望者は増加傾向にある。時間数との調整で2月中のカウンセリングが一回あると良い。	・SCのカウンセリング時間数については、定時制との連絡を密にして調整していく。また相談室での支援や来室してくる生徒同士との交流の中でも学校、学習に意欲が持てる雰囲気作りを心がける。
		8	個々の進路希望を把握し、本人の希望、適性に沿った指導ができたか。	【成果】 進路希望調査を基に担任と連携して、個々の希望に沿った指導を行うことができた。グループクラスルームには就職に加え進学のクラスを作成して入試情報の提供を充実させ、模試を継続して受験する生徒をサポートすることができた。就職の一次合格者は昨年より減少したが、就職支援員のサポートのおかげで、大部分の生徒が内定を得ることができた。 【課題】 ・就職の一次出願は生徒の希望に沿う形だが、内定率は厳しい。見学先および応募先を決める際、生徒にとってより有益な方法を検討したい。	就職の一次出願 ・年度内に、今年度の内定者にアンケートを実施し、生徒が企業を選ぶ際に重視した事項と採否結果について事前に共有、検討材料とする。 ・基本は生徒の希望を最優先とする。その中で、求公開にあたり本校に求訪した企業や、卒業生が就職した企業の情報や生徒に積極的に提供できるよう、その方法を検討する。 進路ガイダンス ・進学ガイダンスの中で行っていた奨学金の説明を「奨学金ガイダンス」として独立させ、5月の早い時期に実施する。 ・進学ガイダンスは5月末に実施し、その後の面接講座も含め、生徒に対して繰り返し授業に向かう意識づけを行う。
生徒指導	進学、就職指導の充実	9	進路ガイダンス等を通して、情報を提供し、上級学校や職業について理解を深めさせることができたか。	【成果】 ・初の試みとして定時制の分野別ガイダンスへの参加を実施し、予想以上の参加があった。進路講演会は就職と進学を別室で実施し、内容を充実させることができた。「キャリア・チャレンジ・パスポート」は昨年度に引き続き参加者があり、進路に向けて大いに刺激になったとの感想が寄せられた。 【課題】 ・進学ガイダンスは実施が時期尚早であり、生徒にとって現実的ではなかった。履歴書・面接講座は内容が本校生徒が実際に直面する課題から乖離している部分もあるため、内容の改善を図りたい。	履歴書・面接講座 ・講師の選定及び内容について見直しを図る。自己理解、身だしなみやマナー等、就職・進学それぞれの面接に向けて準備が必要になることを学ぶ機会とする。
		10	生徒の自主的な活動を促し、生徒会行事、地区行事などを足掛かりに、社会・地域と関わる姿勢を支援することができたか。	【成果】 ・各行事の企画・準備・運営まで、積極的な活動する生徒を支援することができた。 ・地区ハイクでは地域の特色あふれる施設を見学し、文化発表会での研究発表を支援することができた。 【課題】 ・行事に参加する生徒が多くはないことが課題である。どの行事も役員生徒が工夫を凝らし素晴らしい内容であっただけに、とても残念であった。	・多くの生徒の興味を引くような内容を考えていくことももちろんであるが、特別活動の出席状況が各行事に参加するか否かの基準になっている生徒もいるため、特別活動として認められる行事の精査、時間数の見直しを図る。
学校運営	円滑な学校運営	11	生徒のデータ管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	【成果】 ・校務支援システムによる生徒個人データの集約をデータ係・担任等、複数のチェック体制で行い、確実なデータ管理に努めた。 ・体入学や学校説明会等での関係生徒へのアンケート調査や入学者の個人データを分析することで生徒の傾向を把握し、学校運営に活かすことができた。 【課題】 ・情報セキュリティ対策の更なる徹底。	・多数によるチェック体制をさらに充実させ、管理規定に促った情報管理・セキュリティ強化を徹底する。
		12	校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	【成果】 ・昨年度に引き続き、学習環境整備事業として控室の大型を制作し設置した。また、暖房設備を配置するなど、さらにその機能を充実させることができた。 【課題】 ・老朽化したトイレの改修が課題。	・老朽化については関係機関に改善を要請していく。 ・生徒ともにも取り組むことができる機会も活用し、与えられた環境下で最良の状態が作れるよう努力する。
		13	本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	【成果】 ・ビジョン委員会を通じて、現状の課題を職員間で共有した。特に生徒の単位修得に係る内規や教育課程、及び特別活動の配当時間を見直し改善を図った。 【課題】 ・公立通信制高校としての課題意識を常にもち、情報交換等が発活にできる分掌組織を機能させる必要がある。	・通信制高校の全国ネットワーク（全通研、中通研）を活かし情報共有や問題の共有をすすめていく。また、県内公立通信制高校（長野西高、望月行付校）とも情報交換を行い、公立の強みを最大限発揮できるようにする。
開かれた学校づくり	情報誌「筑摩」やホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	14	情報誌「筑摩」やホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	【成果】 情報誌「筑摩」については、8割以上の保護者が学校評価アンケートで「読めたり分かりやすい」との回答をいただいた。学校行事等の情報は、最新のものを迅速にホームページに掲載することができた。	・次年度更新される本校ホームページへの情報掲載を中学生や地域の方々の視点から最新で分かりやすい内容掲載に心がける。
		15	保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	【成果】 ・心の健康講座への保護者の参加など、一定の理解を示していただいた一方で、通信制としての地域関係者との連携がうまく推進できていない。 【課題】 ・保護者や地域関係者の皆様の行事や参観への広報が必要。	・生活体験発表会や通信制文化発表会など、保護者の参加を前提とした行事計画の立案をし、情報誌「筑摩」への掲載やきずなネットでの広報を行う。